



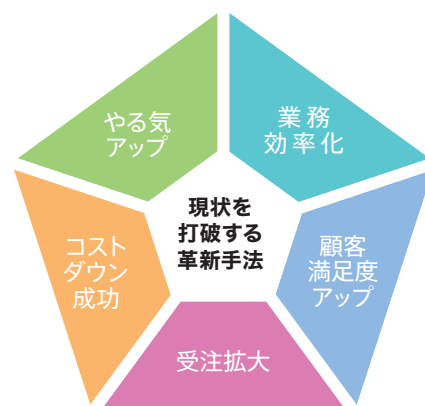
第39回CVS認定試験

日 時	2018年 10月20日(土) 13時30分 ~ 16時30分
会 場	東京、他
受 験 料	32,400円
受験申請受付	2018年9月21日(金)まで

会社、組織を活性化させるVE CVS取得で、会社も自分もさらにバリューアップ！

VE (Value Engineering) とは？

VEは製品やサービスの機能(役割・働き)とコストに着目し、新たな価値を創造する革新手法です。システム化された手順により、大幅なコスト低減と機能向上の両立を図り、お客様に喜ばれる製品やサービスを提供することを目的としています。現状にとらわれない革新的なアイデアが導き出されるのが特徴で、業種や企業規模に関係なく成果を上げることができます。開発・設計・製造段階だけでなく、業務改善や営業部門の効率化、サービス向上などの分野でも広く活用されています。



CVS資格とは

1959年に米国VE協会(現 SAVE International)が設立され、1972年に同協会によってVEの専門資格であるCVS認定制度が創設されました。

CVS資格は、VEの実践、推進、指導を担う人材を広く育成するため、VEに関する正しい知識と極めて高いスキルを持つ人材に与えられるもので、米国VE協会でも正式に認定されると日米双方のVE協会に登録されます。

米国では、連邦政府や州政府の公共事業等のVEチームリーダーをコンサルタントに委託する際に、CVS有資格者であることを要件とするケースが多いようです。

CVS資格の必要性

環境問題が深刻化する中、低炭素化社会、持続可能な社会の実現に向けて、企業・団体の果たすべき責務が大きくなるとともに、国民一人一人の意識、行動の変革も課題となってきました。

創造力の発揮により資源の有効活用を図るVEの一層の活用と推進、そのための人材の育成が求められており、CVS資格はその全てに貢献します。

また、VEを実施するとコミュニケーションスキルやプレゼンスキル等、さまざまなスキルが身につくので、CVS資格取得のためにVEに関する知識やスキルを高め、経験を積むことは個人のスキルアップにつながります。

企業等での取得状況

所属別のCVS有資格者(日本国内)

No.	企業名/学校名	有資格者数
1	産業能率大学	7名
2	三菱電機	6名
3	IHI	5名
4	パナソニック	4名
	フジタ	4名
6	いすゞ自動車	3名
7	アズビル	2名
	キヤノン	2名
	建設技術研究所	2名

(2018年3月8日 現在)

国別のCVS有資格者

No.	国名	有資格者数
1	韓国	449名
2	アメリカ	262名
3	日本	148名
4	インド	19名
	サウジアラビア	19名
6	カナダ	17名
7	ハンガリー	14名
8	中国	7名
9	台湾	4名
10	イギリス	3名
	南アフリカ	3名

(2018年1月31日 現在)

第38回 CVS認定試験合格者の声



三菱電機株式会社

市川 典弘氏

1.はじめに

私はVE活動推進事務局に所属しています。社内の各部門にVE活動を展開するには、各部門の個別課題を対策する施策の計画と実行が重要です。そのためには、VEに関する知識と応用力の向上が必要と考え、CVSを受験する決意をしました。

2.勉強の方法

CVS認定試験および審査は、申請者がもっているVE知識のみならず、実務経験や応用力もあわせて審査するものです。特に、すべての対象と段階のVE実践や教育を含むVE推進の計画・動機づけ並びに阻害要因を解決する施策の立案及び実行する能力の習得が重要と考えました。その習得方法は、新・VEの基本、VEハンドブック、VE入門Q&A及びバリュー・マネジメント実践塾のテキストを参考にし、VE資格別知識領域とVE資格別スキル領域に記載されているCVSの領域毎に要旨をまとめること、自社の各部門の個別課題を対策する施策を立案することで対応致しました。

3.試験中の心掛け

CVS認定試験は論述形式で試験時間は3時間です。書き直しは時間ロスとなりますので絶対に避けなければなりません。そのためには、最初に設問をよく読んで出題者の意図を考え、その意図に合った解答の流れを頭の中で思い描き、その後、自分自身の言葉で簡潔に記載することが大切です。

4.おわりに

私はVE活動に関係する人々を幸せにすることで、社会に貢献したいと思っています。それぞれの幸せは求める価値が異なりますので、すべての対象と段階でVE実践ができる能力の習得が必要です。私はCVS資格取得により一歩進んだと思っています。このように、VE実践の能力向上を目指す方にはCVS資格取得はお勧めです。最後となりますが、CVS資格取得に向けてご指導いただきました方々に深く感謝申し上げます。

CVS認定試験の方式と内容は

CVS認定試験は“記述式”で行っております。

試験の内容については、VE資格の取得を目指す方々の指針として設定した知識領域及びスキル領域をご参照ください。

■VE資格別知識領域

次の表は、VEリーダー、VEスペシャリスト、CVS資格取得を目指す方々の指針として設定したVE知識の領域と水準を表したものです。水準は、○と◎によって示されています。

○:知識領域の内容を理解している ◎:知識領域の内容を理解した上で説明できる
資格取得に向けた学習の参考にしてください。

知識領域			資格		
領域区分	内容		VEL	VES	CVS
VEの概要	VEの必要性	VEの社会的貢献	○	◎	◎
		資源の有効活用	○	◎	◎
		自然環境維持への貢献	○	◎	◎
		事業環境の変化への対応	○	◎	◎
	VEの歴史	顧客満足への貢献	○	◎	◎
		VE誕生の経緯	○	◎	◎
		政府機関におけるVEの活用経緯	○	◎	◎
		SAVE-インテリジェントな活動	○	◎	◎
	日本におけるVE	日本におけるVE導入経緯	○	◎	◎
		日本におけるVE発展経緯	○	◎	◎
		日本VE協会の活動	○	◎	◎
	VEの定義と原則	VEの定義	○	◎	◎
		ライフサイクル・コストの概念	○	◎	◎
		必要な機能の意味	○	◎	◎
		機能的研究の意義	○	◎	◎
		組織的協力の意義	○	◎	◎
		VEの定義の意義	○	◎	◎
		VEの基本原則	○	◎	◎
		使用者優先の原則	○	◎	◎
	価値概念	価値(V)=機能(F)/コスト(C)の概念	○	◎	◎
		一般的な価値概念との関連	○	◎	◎
VE適用対象と段階	VEの適用対象	VEの適用対象	○	◎	◎
		適用対象ごとのVE適用上の特徴	○	◎	◎
		VEの適用段階	○	◎	◎
		適用段階ごとのVE適用上の特徴	○	◎	◎
	適用段階と活動形態	適用段階に応じたVE実施手順・活用技法	○	◎	◎
		開発型VEと支援型VE	○	◎	◎
	VE実施手順	既存システム改善	○	◎	◎
		新規システム開発の実施手順との相違点	○	◎	◎
		新規システム開発における支援型VEの適用の要点	○	◎	◎
		実施手順	○	◎	◎

■VE資格別スキル領域

次の表は、VEリーダー、VEスペシャリスト、CVS資格取得を目指す方々の指針として設定したVEスキルの領域を表したものです。

●は資格別に発揮するスキル領域を示しています。

VEを活用する場合は、VE対象を理解した上でこれらのスキルを発揮してほしいと考えています。

スキル領域			資格		
領域区分	内容		VEL	VES	CVS
VEの実施手順	機能定義段階	VE対象の情報収集の計画を立てることができる	○	◎	◎
		計画に基づいて情報が収集できる	○	◎	◎
		収集した情報を整理できる	○	◎	◎
		収集した情報が必要かつ十分であることを確認できる	○	◎	◎
		VE対象を適切な構成要素に分割できる	○	◎	◎
		適切な機能の定義ができる	○	◎	◎
		機能の定義の妥当性を判断できる	○	◎	◎
		適切な機能系統図の種類を選定できる	○	◎	◎
		適切な機能の整理ができる	○	◎	◎
		機能系統図の妥当性を判断できる	○	◎	◎
	機能評価段階	VE対象に応じた機能定義段階の指導ができる	○	◎	◎
		妥当な現行コストの情報源を把握できる	○	◎	◎
		構成要素と機能分野の関連を明確にできる	○	◎	◎
		機能別コスト分析で用いる配賦計算の方法を選択できる	○	◎	◎
		構成要素の現行コストを機能分野に配賦できる	○	◎	◎
		適切な機能の評価方法を選択できる	○	◎	◎
		機能評価値を算定できる	○	◎	◎
		機能評価値の妥当性を判断できる	○	◎	◎
		価値の程度とコスト低減余地を算出できる	○	◎	◎
		価値改善の優先順位を決定できる	○	◎	◎
代替案作成段階	機能系統図上でアイデア発想機能を選定できる	アイデア発想で活用する技法を選択できる	○	◎	◎
		機能本位にアイデア発想ができる	○	◎	◎
		アイデアの概略評価ができる	○	◎	◎
		アイデアの概略評価の適否を判断できる	○	◎	◎
		アイデアの具体化ができる	○	◎	◎
	既存システムのVE提案	詳細評価を計画できる	○	◎	◎
		代替案の詳細評価ができる	○	◎	◎
		技術性と経済性の評価結果から、提案すべき代替案を決定できる	○	◎	◎
		裏付け資料の適否を判断できる	○	◎	◎
		VE対象に応じた代替案作成段階の指導ができる	○	◎	◎
VEの実施手順	VE対象に応じて提案内容を決定できる	提案内容に応じて提案内容を決定できる	○	◎	◎
		決まった提案内容について提案資料を作成できる	○	◎	◎
		提案内容を簡潔に伝え、質問に的確に回答できる	○	◎	◎

(VE資格別知識領域及びスキル領域)

<https://www.sjve.org/certify>

CVS認定試験の受験資格要件は

1. VE学習経歴

次の①または②のいずれか一つを満たしていること

①米国VE協会が認定している72時間以上のVEワークショップ・セミナーを受講・修了していること。

(上記の認定ワークショップ・セミナー)<https://www.sjve.org/certify/cvs/wss>

②VEスペシャリスト資格の登録者で、バリューデザインスクールVE上級コース(旧 バリュー・マネジメント実践塾アドバンスコース)全4講座を受講・修了していること。

2. VE実務経歴

① カテゴリー1: VEチーム活動及びVE推進活動について合計で48点以上あること。

② カテゴリー2: VEに関する講座の受講、大会・セミナーや研究会への参加について30点以上あること。

③ カテゴリー3: VEに関する教育・指導や講演・発表、非営利法人が行う社会貢献活動への支援について10点以上あること。

3. VE研究論文の執筆・公表

申請者が単独(共著であっても第一執筆者であれば可)で執筆し、専門家の審査を経て公表した、又は公表予定のVEに関する研究論文があること。

受験申請から合格通知までの流れ

本会のホームページから

<https://www.sjve.org>

詳しい情報や受験申請書の書式を入手

2018年4月2日(月)～2018年9月21日(金)

受験料を本会指定の銀行口座又は郵便口座に納入し、
受験申請書を郵便又は宅急便で本会に提出

書類審査を受験申請書で実施

2018年9月28日(金)

書類審査で受験資格要件を満たしていると認められた方
に受験票を発送

※試験日の3営業日前まで、受験を無料でキャンセルすることができます。

2018年10月20日(土)

受験票に案内図が同封されていた会場で
筆記試験を受験

2018年10月22日(月)以降

※筆記試験の受験者に対し、必要に応じて面接審査を行うことが
あります。
※試験の結果は、実施日から6週間以内に文書でお知らせいたします。
※合格者には登録料32,400円と4年おきに再認定料32,400円を
別途納入していただきます。

参考図書

新・VEの基本

～累計売上部数15万部!“VEのバイブル”～

バリュー・エンジニア養成の効果的方法で
あるワークショップ・セミナーのテキストと
して編集されたVE資格取得のための参考
図書。

発行：産業能率大学出版部

価格：2,160円(消費税込、送料別)

※本会のホームページからお買い求めいただけます。



VE用語の手引

～VEの専門用語をわかりやすく解説～

VE用語の共通的な解釈についてのニーズ
に応えるべく、本会のVE用語手引専門分
科会が客観的視野で一語ずつ検討を重ね
てまとめた実用向き手引書。

発行：公益社団法人日本バリューエンジニアリング協会

価格：1,296円(消費税込、送料別)

※本会のホームページからお買い求めいただけます。



VEハンドブック普及版

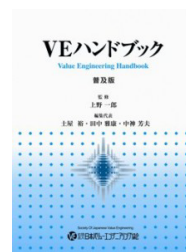
～VEの理論・技法と実践事例の集大成!～

バリュー・カルチャーを構築して価値向上
を実現するためVEを総合的・体系的に、
かつ広く深く理解できるように記述された
VE研究者・実務家必携の書で、VE資格
を目指す方々にとっては最適の参考書。

発行：公益社団法人日本バリューエンジニアリング協会

価格：9,720円(消費税込、本会会員価格、送料別)

※本会のホームページからお買い求めいただけます。



詳しくは、ホームページ **www.sjve.org** へ

受験申請方法などの詳しい情報をホームページに掲載しております。

お問い合わせ先

公益社団法人

日本バリュー・エンジニアリング協会 事務局 CVS試験係

略称/日本VE協会(SJVE)

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-4-15 真井ビル6階 TEL:03-5430-4488 FAX:03-5430-4431 E-mail:suzuki@sjve.org